国際仲裁法

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

1986年外国仲裁判断法から1994年国際仲裁法へ

シンガポールの現代的な仲裁法は、二つの段階を経て築かれました。第一段階は、外国仲裁判断の執行に関するものでした。シンガポールは1986年8月21日、1958年の外国仲裁判断の承認及び執行に関する条約（ニューヨーク条約）に加入しました。同条約は1986年11月19日にシンガポールについて発効しました。その際、シンガポールは他の締約国でなされた仲裁判断にのみ条約を適用するという留保を付しています。条約は、同日に施行された1986年仲裁（外国仲裁判断）法（Arbitration (Foreign Awards) Act 1986）によって国内実施されました。[1]

第二段階は、シンガポールを仲裁地とする仲裁に関するものでした。議会は1994年10月31日に国際仲裁法（International Arbitration Act）を可決し、同法は1995年1月27日に施行されました。[2]同法は外国仲裁判断法を第3部に取り込み、国内仲裁とは別の国際仲裁の制度を創設しました。国内仲裁は現在、2001年仲裁法（Arbitration Act 2001）によって規律されています。[3]この時期には重要な意味がありました。経済開発庁（EDB）は20年にわた

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

り地域統括拠点や商社を誘致してきました。これについては本書の第G部で検討します。これらの企業は、アジアでの事業に近い中立的な法廷地を必要としており、立法府がそれを提供したのです。

モデル法と国際仲裁の定義

同法の中核は第3条です。同条は、承認と執行に関する第VIII章を除き、国際商事仲裁に関するUNCITRALモデル法にシンガポールにおける法としての効力を与えています。1985年6月21日にUNCITRALが採択したモデル法は、第1附則に収録されています。[4]第4条により、裁判所はUNCITRALとその作業部会の文書を参照してモデル法を解釈することができます。これによってシンガポールは、共通の国際的なテキストに従う仲裁法を持つ法域の仲間入りをしました。外国の法律家は、現地特有の事情を研究しなくてもその仲裁法を理解できます。

同法は国際仲裁に適用されます。第5条によれば、少なくとも一方の当事者がシンガポール外に営業所を有する場合、仲裁地または債務の実質的部分が履行されるべき場所が当事者の営業所所在国の外にある場合、あるいは当事者が紛争の対象が複数の国に関係することを明示的に合意した場合、その仲裁は国際仲裁として扱われます。国内仲裁の当事者は、書面による合意によって国際仲裁の制度を選択することができます。[5]シンガポール企業は、国際仲裁の制度における、より限定的な裁判所の監督を好む場合に、この選択を利用しています。

当事者自治と仲裁廷の権限

同法は、当事者自治の尊重と、仲裁廷のための強力な手段とを組み合わせています。当事者が仲裁合意に違反して裁判所に訴えを提起した場合、第6条は、合意が無効、失効または履行不能でない限り、裁判所に手続を停止するよう義務づけています。第11条は、当事者が仲裁に付すことを合意した紛争は、公序に反しない限り、仲裁によって解決できると定めていま

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

す。法律が裁判所に管轄権を付与しているという事実だけでは、その事項が仲裁不能となるわけではありません。2019年以降、同法は知的財産権に関する紛争も仲裁による解決が可能であると明記しています。[6]

第12条は仲裁廷の権限を列挙しています。仲裁廷は、訴訟費用の担保、文書および事実の開示、宣誓供述書による証拠、係争財産の保全または売却、証拠の保全、請求額の担保、資産散逸の防止措置、暫定的差止命令、守秘義務の執行を命じることができます。申立人がシンガポール外に居住し、またはシンガポール外で設立されたというだけの理由で、訴訟費用の担保を命じることはできません。この規定は外国の利用者に安心感を与えています。[7]同法は、仲裁機関の規則に基づいて選任された緊急仲裁人も仲裁廷に含まれると定義しています。したがって、緊急仲裁人の命令は裁判所を通じて執行することができます。[8]

同法は、制度を支える人々も保護しています。仲裁人は、過失や、法律・事実・手続に関するいかなる誤りについても責任を負いません。選任機関および仲裁機関は、悪意による行為についてのみ責任を負います。当事者自身の選任方法が機能しない場合に仲裁人を選任する法定の機関は、SIAC仲裁裁判所の所長です。[9]仲裁判断は終局的なものであり、当事者およびその承継人を拘束します。高等法院の許可を得れば、判決と同じ方法で執行することができます。[10]

2001年から2022年までの改正

同法は頻繁に改正されてきました。その多くは、実務家からの提案や競合する仲裁地の動向に対応したものです。改正法は2001年、2002年、2009年、2012年、2020年に可決され、さらに裁判所改革や他の法律に伴う関連改正も行われました。[11]各改正は、具体的な問題に対処するものでした。2009年の改正は、仲裁地がどこであるかを問わず、仲裁を支援する暫定措置を命じる権限を高等法院に与えました。これにより、ロンドンや香港での仲裁の当事者も、シンガポールにある資産を凍結することができます。[12]2012年以降は、仲裁廷が自らに管轄権がないと判断した場合にも、当事

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

者は30日以内にその判断を裁判所に持ち込むことができます。モデル法だけでは、このような方法で争うことができたのは管轄権を肯定する判断に限られていました。[13]

2021年の裁判所改革は、仲裁関連の裁判手続の扱いを変更しました。こうした手続は、裁判所が職権で、または何人かの申立てにより公開法廷での審理を命じない限り、非公開で審理されます。[14]こうして、利用者が重視する秘密性が法廷にまで拡張されています。判決は通常匿名化された形で公表されます。以下で取り上げる主要判例の多くが*DJP v DJO*や*BCY v BCZ*のようなアルファベットの記号で表記されているのは、そのためです。

2025年の改正論議

2025年、法務省はさらなる改正作業に着手しました。シンガポール国際紛争解決アカデミー（SIDRA）に仲裁制度の調査を委託し、2025年3月21日から5月2日まで意見公募を実施しました。八つの論点には、仲裁判断が取り消された後の費用命令、高等法院からの上訴に対する許可要件、詐欺または汚職を理由とする取消申立ての3か月の期間制限を延長する裁量、選択制による法律問題に関する上訴、仲裁合意の準拠法に関する法定ルール、そして略式処理に関する明示の権限が含まれていました。[15]

これらの提案は、シンガポールが仲裁法をどのように運営しているかを示しています。政府は競合する仲裁地、とりわけ2025年イングランド仲裁法（English Arbitration Act 2025）制定後のロンドンを注視し、利用者が不利を感じる前に自国の法律を調整しています。2026年5月に公表されたレビューによれば、意見公募の後に新たな動きはなく、改正も発表されていません。[16]したがって、本章で説明する法は、2025年3月9日から施行されている統合版の国際仲裁法です。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

注

1. UNCITRAL、ニューヨーク条約の締約状況一覧（uncitral.un.org、2026年11月最終閲覧）：シンガポール、加入1986年8月21日、発効1986年11月19日、相互主義に関する宣言(a)。締約国は計172。International Arbitration Act 1994（2020 Rev Ed、2025年3月9日施行の非公式統合版）、Legislative History、項目1：Act 24 of 1986、施行1986年11月19日。 ↩

2. International Arbitration Act 1994、Legislative History、項目3：Act 23 of 1994、第二読会および第三読会1994年10月31日、施行1995年1月27日。 ↩

3. International Arbitration Act 1994、s 5(4)（Arbitration Act 2001の適用除外）およびPart 3、ss 27–33（外国仲裁判断）。 ↩

4. International Arbitration Act 1994、s 3(1)およびs 2(1)、「Model Law」の定義。 ↩

5. International Arbitration Act 1994、s 5(1)–(3)。 ↩

6. International Arbitration Act 1994、ss 6(1)–(2)および11(1)–(2)。International Arbitration Act 1994、s 26B。Intellectual Property (Dispute Resolution) Act 2019（Act 23 of 2019）により挿入、2019年11月21日施行。 ↩

7. International Arbitration Act 1994、s 12(1)(a)–(j)および(4)。守秘義務に関する(j)号はAct 32 of 2020により追加。 ↩

8. International Arbitration Act 1994、s 2(1)：「arbitral tribunal」は「includes an emergency arbitrator appointed pursuant to the rules of arbitration agreed to or adopted by the parties」。 ↩

9. International Arbitration Act 1994、ss 25、25Aおよび8(2)（モデル法第11条第3項および第4項に基づく機関としてのSIAC仲裁裁判所所長）。 ↩

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

10. International Arbitration Act 1994、ss 19および19B(1)。 ↩

11. International Arbitration Act 1994、Legislative History、項目5–20：Acts 38 of 2001、28 of 2002、26 of 2009（2010年1月1日施行）、12 of 2012（2012年6月1日）および32 of 2020（2020年12月1日）。2020年改訂版は2021年12月31日から運用。 ↩

12. International Arbitration Act 1994、s 12A(1)–(4)、Act 26 of 2009により挿入：「irrespective of whether the place of arbitration is in the territory of Singapore」適用される。 ↩

13. International Arbitration Act 1994、s 10(2)–(3)、Act 12 of 2012による改正後のもの。 ↩

14. International Arbitration Act 1994、s 22(1)–(2)、Act 25 of 2021による改正後のもの（2022年4月1日施行）。 ↩

15. Allen & Gledhill、「MinLaw seeks feedback on international arbitration regime and International Arbitration Act 1994」、2025年4月4日：SIDRAの調査に基づき、2025年3月21日から5月2日まで意見公募。八つの論点を列挙し、UK Arbitration Act 2025に言及。 ↩

16. Global Arbitration Review、*The Asia-Pacific Arbitration Review 2027*、「Singapore arbitration updates: IAA reform proposals and key court decisions from 2025–2026」（2026年5月14日）：八つの論点に関するSIDRA報告書、法務省の意見公募。その後の進展はなく、改正も発表されていない。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned.

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.